

経済学部

【学位授与の方針】

教育目標に照らして学生が身につけるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める所定の単位取得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

経済学科

1. 知識と技能

- (1) 経済分析に必要な知識や政策系の経済学の諸分野についての知識を有する。
- (2) 経済学、経営学、法律学の3つの分野を総合的に学び社会の諸事象を多面的に把握する姿勢を有する。
- (3) 情報の収集と分析、他者とのコミュニケーション、意見表明などに必要な基本的能力を有する。

2. 課題発見・問題解決能力

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、自立した個人として生きるための素養を身につけている。
- (2) 社会や経済に関する課題を発見し、その解決に向けて専門知識を用いる能力を有する。

3. 個人と社会の発展を支える力（意欲と向上心）

- (1) 社会や経済の諸問題に強い関心を維持し、自主的に学習を続ける意欲を有する。
- (2) 物事を多面的に捉え、環境や他者に配慮しつつ、社会や生活の向上に取り組む意欲と態度を有する。

経営学科

1. 知識と技能

- (1) 経営学の諸分野の知識を有する。
- (2) 経済学、経営学、法律学の3つの分野を総合的に学び社会科学の知識に基づき社会の諸事象を多面的に把握する姿勢を有する。
- (3) 情報の収集と分析、他者とのコミュニケーション、意見表明などに必要な基本的能力を有する。

2. 課題発見・問題解決能力

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、自立した個人として生きるための素養を身につけている。
- (2) 社会や経済の課題を見出し、その解決に向けて専門知識を用いる能力を有する。

3. 個人と社会の発展を支える力（意欲と向上心）

- (1) 社会や経済の諸問題に強い関心を維持し、自主的に学習を続ける意欲を有する。
- (2) 物事を多面的に捉え、環境や他者に配慮しつつ、社会や生活の向上に取り組む意欲と

態度を有する。

経済法学科

1. 知識と技能

- (1) 法律学の諸分野の知識を有する。
- (2) 経済学、経営学、法律学の3つの分野を総合的に学び社会科学の知識に基づき社会の諸事象を多面的に把握する姿勢を有する。
- (3) 情報の収集と分析、他者とのコミュニケーション、意見表明などに必要な基本的能力を有する。

2. 課題発見・問題解決能力

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、自立した個人として生きるための素養を身につけている。
- (2) 社会や経済の課題を見出し、その解決に向けて専門知識を用いる能力を有する。

3. 個人と社会の発展を支える力（意欲と向上心）

- (1) 社会や経済の諸問題に強い関心を維持し、自主的に学習を続ける意欲を有する。
- (2) 物事を多面的に捉え、環境や他者に配慮しつつ、社会や生活の向上に取り組む意欲と態度を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するため、以下の方針のもとに教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

(1) 専門教育科目と教養教育科目を体系的・順次的に配置し、年間に履修可能な科目数の上限を設定し、4年間かけて履修するよう教育課程を編成する。

(2) 教養教育においては3つの分野を通じて基本的知識を修得する。

(i) 基礎的な知識と技能の分野

文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（大学入門科目□、基本教養科目、インターフェース科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を、必修および選択必修として幅広く履修する。

(ii) 課題発見・解決能力の分野

高等学校と大学の接続を図るための授業科目（大学入門科目I）と現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるための科目を選択して学ぶ（基本教養科目、インターフェース科目）。

(iii) 個人と社会の持続的発展を支える力、ないしは、社会を担う個人としての資質の分野

他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を幅広く履修する（基本教養科目、インターフェース科目）。基本教養科目に関しては、社会科学系以外の自然や人文系科目も選択することにし、幅広い知識・情報を身につけるよう教育課程を編成する。

(3)教育組織を3学科に分け、以下の方針にそって専門科目を配置する。

- ① 経済学・経営学・法律学の基本的知識を学習するために、各学科に「学部入門科目」「学部入門ゼミ」「学部基礎科目」を必修、選択必修科目として配置する。
- ② 読解力・文章作成力、意見表明能力を養成するために、必修科目として1年生前期と後期に「入門ゼミ」を、2年生後期の「基礎演習」、そして、3年生から4年生まで「演習」を配置する。
- ③ 専門分野の知識を修得するために「コア科目」を選択必修科目として配置する。
- ④ 幅ひろく専門知識を修得するため「展開科目」を選択必修科目として配置する。
- ⑤ 現実の把握と分析に理論を応用し、問題発見・解決能力を養成するために実践型授業を配置する。
- ⑥ 国際化に対応する能力を養成するために、「ビジネス基礎英語」「ビジネス・コミュニケーション英語」などの実践型語学科目を配置する、

2. 教育の実施体制

- (1)経済学部の教育は、学部教育委員会が企画、立案、点検、および改善を行う。
- (2)各授業科目の教育については、定められた人事方針のもと高度な専門性と教育力を有する教員を配置し、実施する。
- (3)上記の教育課程の方針を徹底するため各学科に主任と教育委員を配置する。

3. 教育・指導の方法

- (1)教育方法として、講義形式による授業と演習方式による授業とを組み合わせ、多様でバランスのとれた教育課程を実施する。
- (2)演習では、少人数による知識や読解力の養成とともに、意見表明能力や問題発見・解決能力を養う授業を実施する。

4. 成績の評価

- (1)授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準はシラバスなどによって学生に周知する。
- (2)教員は試験問題を保存・公開し、学生との面談の機会を設けて説明責任を果たす。

5. 以上のように編成された教育課程を修得することにより、経済学部ではすべての学生が学士力を身につけることになる（別表参照）。

【入学者受入れの方針】

教育方針を実施するため、以下のような方針に基づき入学者を選抜する。

1. 求める学生像

経済学部では以下のような考えや目的をもった学生を求めている。

(1) 社会や経済における課題を発見し解決する能力を身につけ、企業や自治体などでの活動を通じて社会に貢献したいと考える人。

(2) 高度な専門知識を身に付け、経済・経営・法律の分野で専門職業人となることを目指す人。

(3) 社会の変化に対応するために生涯にわたって学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学習能力を大学で得たいと考えている人。

2. 入学者選抜の基本方針

[一般入試]

前期日程と後期日程のいずれにおいても大学入試センター試験を課している。このことによって、高等学校での学習の達成度をみるとともに、大学での学習に必要な基礎学力をもっているかを判断する。また個別学力検査は、前期日程では英語、後期日程では小論文の試験をおこない、社会科学の専門知識を得るための語学力や読み書きの能力をもっているかをみる。

[推薦入試]

普通科系の生徒を対象にした入試と商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象とした入試がある。1次選考では、調査書によって高等学校での学習の達成度をみる。2次選考では、小論文で社会科学を学ぶための読解力や論理的な文章を作成する能力をはかり、口頭試問によって学ぶ意欲などをみる。

商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした入試では簿記検定などの資格取得といった経済学部への勉学に関連した学習実績も評価する。

[私費外国人入試]

日本語試験と日本語による口頭試問を行い、「日本留学試験」の結果とあわせて、専門知識が習得できる学力と日本語能力をもっているかを判断する入試をおこなう。

3. 高等学校段階で習得すべき内容・水準

経済学科、経営学科、経済法学科に共通して以下のことを求める。

1. 知識と理解

(1) 社会で生起している問題を理解するためには幅広い分野の基礎知識が必要である。したがって、高等学校の主要教科科目の教科書レベルの知識を習得していることが大切である。

(2) 大学での勉学を有意義なものとするには、知識や情報を理解し、自分の考えをまとめるために国語と英語の学力を身につけておくことが大切である。

(3) 専門高等学校から進学する場合には、普通科目の勉学だけでなく商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが大切である。

2. 意欲と関心

社会で生起している問題に関心を持ち、自らの考えをまとめ、表現する意欲が大切である。

別表 経済学部「卒業に必要な単位数」と「佐賀大学の学士力」

学士力（大項目）	学士力（中項目）	学士力（小項目）	授業科目
1. 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然		基本教養科目（自然科学と技術の分野、文化の分野）
			インターフェース科目
	(2) 現代社会と生活		健康・スポーツ科目
			基本教養科目（現代社会の分野）、インターフェース科目
	(3) 言語・情報・科学リテラシー		外国語科目
			外書講読、ビジネス基礎英語、ビジネス・コミュニケーション英語
			情報リテラシー科目
			学部入門科目、情報処理演習
(4) 専門分野の基礎的な知識と技能		学部入門科目	
		学部基礎科目 学部入門ゼミ（1年）	
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力		演習（2・3・4年）

	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力		コア科目 ----- 展開科目 実践科目
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力		大学入門科目 ----- 演習（2・3・4年）
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力		基本教養科目（文化の分野、現代社会の分野）
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力		演習（2・3・4年） コア科目 展開科目 実践科目
	(3) 高い倫理観と社会的責任感		基本教養科目（文化の分野、現代社会の分野）